

農政の動き 2017年8月25日～8月31日

◎水稲1等比率 前年同期比6.7ポイント低い54.1%

農林水産省は、2017年産の水稲うるち玄米の1等比率は7月31日現在で、前年同期比6.7ポイント低い54.1%となったと発表した。同時期としては直近5年で最も低い。2等以下への格付け理由は、着色粒（カメムシ類）が75.2%で全体の4分の3を占め、整粒不足が9.7%、充実度が8.4%、心白と腹白が2.7%だった。（8月25日）

◎特用林産物の生産量 キノコ類1%増

林野庁は、2016年特用林産物の生産量を公表した。キノコ類は前年比1.0%増の45万7483トで、うち乾シイタケは3.9%増加し、生シイタケも2.1%増えた。その他の食用ではタケノコが22.8%増加。非主食用はうるしが5.8%増となる一方、竹炭は17.6%減だった。（25日）

◎田畑の作付延べ面積 前年比2万5千㌔減

2016年の田畑計の作付（栽培）延べ面積は、全国で前年比2万5千㌔（1%）減の410万2千㌔だったと、農林水産省が発表した。耕地利用率は前年並みの91.7%だった。内訳は、田の作付面積は、飼肥料作物や麦・豆類などが増加したが、水稲（子実用）などが減少し、6千㌔減の225万7千㌔となった。利用率は0.3ポイント増の92.8%だった。畑の作付面積は、雑穀は増加したものの、飼肥料作物や野菜、果実などの減少により1万9千㌔減の184万5千㌔だった。利用率は0.4ポイント低下し、90.5%となった。（29日）

◎大豆の生産費 前年産比0.3%減の6万2768円

農林水産省は、2016年産の大豆の10㌔当たり全算入生産費は前年産比0.3%減の6万2768円だったと発表した。反収の減少で乾燥・調製委託数量が減ったため。ソバも生産費も同様の要因で、4.5%減の3万4568円となった。（29日）

◎冷凍牛肉SG発動で価格に「大きな変動はない」

冷凍牛肉に対するセーフガード（緊急輸入制限措置、SG）が発動して1カ月がたつのを前に、齋藤健農相は会見で、発動前後で米国産冷凍牛肉の価格に「大きな変動はない」と強調し、一部で出ていたSGによる価格上昇の懸念を打ち消した。また、米国で上がる懸念・不満については「（政府間合意に基づく実施と）理解していただかないといけない」と述べ、米政府に説明を続ける方針を示した。（29日）

◎農水省が森林環境税の創設など要望

農林水産省は、2018年度の税制改正要望をまとめた。森林吸収源対策の財源確保にかかる森林環境税（仮称）の創設と、新たな都市農業振興制度の構築に伴う税制上の措置（相続税）の導入が柱。既存措置の主要事項には、軽油取引税の課税免除の特例措置の3年延長や、農業経営基盤強化準備金制度の2年延長（所得税・法人税）なども要望した。農地中間管理機構への貸し付け促進に向け、農地保有にかかる課税の軽減措置の2年延長（固定資産税・都市計画税）を盛り込んだ。（31日）